

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00340

研究課題名（和文）歌書を中心とした江戸時代の絵本と絵入本に関する基礎的研究

研究課題名（英文）Fundamental study on picture books and illustrated texts during the Edo period with a focus on Poetic Collections

研究代表者

神作 研一（KANSAKU, Ken'ichi）

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：30267893

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：新型コロナの影響を強く受けたものの、当初の計画通り、歌書を対象とした絵本と絵入本の基礎的研究を推進することができた。一部にデジタルデータによる調査を含む上に、諸般の事情による未見の書目も一定程度残ったが、種々の関連古典籍の収集も叶い、これでおおむね絵入歌書刊本の全容を把握できるものと考えられる。問いを生むこの基礎データを基盤として、今後はより全円的な江戸の絵入本研究へと発展させたい。

文献資料ワークショップでの発表に留まらず、国際学会E A J Sでのパネル発表と英文論文の公開など国際性を強く意識した研究成果を出せたことも特記しておく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

既にこれまでに高度な達成を見せてきた江戸の絵本・絵入本研究に、今般新たに歌書の領域をカバーすることによって、より全円的な江戸の絵本・絵入本研究を推進してゆくための基盤を提供できたことは大きな達成であった。絵本と絵入本は国外での注目度も高いため、国際性を強く意識した研究成果を出せたことにも高い学術的意義があると認識している。

また、折々の読売新聞への寄稿や、月刊誌『俳句四季』（東京四季出版）誌上での連載なども、社会的意義の高い研究成果である。

研究成果の概要（英文）： Despite the significant impact of the COVID-19 pandemic, I conducted a preliminary study on picture books / illustrated books of poetry as initially planned. Although some of the research was based on digital data, and certain titles remained unseen due to various reasons, I could collect a diverse range of classical poetry. I believe that I now have a comprehensive overview of the entire collection of illustrated poetry books. Based on this foundational data, I will expand this study into a more comprehensive exploration of illustrated books in the Edo period.

Furthermore, I had the opportunity to present my research at the Workshop of the Classical Books. Additionally, it is worth noting that I achieved a strong international presence, including delivering panel presentations at international conferences such as EAJS, as well as publishing an English paper, all while maintaining a focus on global perspectives.

研究分野：日本文学

キーワード：和歌絵本 歌書刊本 絵本 絵入本

1. 研究開始当初の背景

絵入本は、早く宋・元版を範とした五山版に出現し、その後の古活字版の時代(絵は整版)を経て江戸期に入り実に多様な展開を見せた。文学の研究としては本文の読解が何よりも重要だが、出版の時代の文学である近世文学の諸問題を考える際には、絵を「読む」ことも求められる。絵本と絵入本の追究がことさら大切な所以である。そのような観点からこれまでも、喜多川歌麿の『画本虫撰』(天明8年刊)などの「狂歌絵本」や、勝川春章の『役者夏の富士』(安永9年序刊)などの「役者絵本」、あるいは勝間龍水の『海の幸』(宝暦12年刊)などの「絵俳書」(俳諧絵本)の類が、近世文学研究者と美術史研究者の双方によって精力的に研究され、高く評価されてきた。

その一方で、歌書を対象とした絵本と絵入本の研究は、ほとんど手つかずのまま放置されてきた。江戸に即して研究を実証的に推進するには、漢詩や和歌などの雅文学にも留意し、雅俗双方にわたってバランス良く研究を進めることが肝要なのだが、しかし現状は、歌書の絵本と絵入本刊行の全容は分からない。ましてや、その「刊・印・修」の実態を識別することも叶わない。本研究は、このような研究の現状(学術的背景)を正確に見据えた上で初めて、歌書の絵本と絵入本の基礎的研究に取り組むものである。

2. 研究の目的

本研究の主たる研究目的は2つ。

【A】悉皆調査による基礎データの集積(調査)

関係文献の悉皆調査を実施し、歌書の絵本と絵入本刊行の実態が見渡せるような基礎データを集積する。各種先行文献を踏まえて、適宜デジタルデータによる調査で補完しながら、版本書誌学の確立を意識した基礎データを集積したい。

【B】個別の重要資料に関する国内外での紹介と発信(研究)

国内だけに留まらず、在外研究者の関心が高い領域であることに配慮して、E A J S(ヨーロッパ日本研究協会)など海外の国際学会での研究発表を行う。

例えば菱川師宣の『百人一首像讃抄』は、延宝6年に刊行されたあと、延宝7年、天和3年、元禄5年と立て続けに版木を新刻した本が刊行され、その下限は明治16年というロングセラーであった。また勝川春章の『錦百人一首あづま織』(安永4年刊)には、実は、和歌本文の筆者を違える2種のバージョンが存在する。原資料に基づいてこのような小さな発見と考証を粘り強く重ね、その要諦を学界に紹介することは、包括的な江戸の絵本と絵入本研究の推進に欠くことのできない重要な研究課題だと認識している。

3. 研究の方法

以下の2点を複合的に進める。

【1】文献調査(→【A】悉皆調査による基礎データの集積)

各種先行文献の達成を取り込みつつ、歌書の絵本と絵入本の書誌調査を進める。国文研をはじめとする国内外の諸機関において文献調査を実施するとともに、適宜デジタルデータを補完的に利用する。

【2】研究(【B】個別の重要資料に関する国内外での紹介と発信)

研究発表と研究論文をベースとした上で、解題の作成や新聞・雑誌等への寄稿、展示会の開催など、学術的な達成が広く一般社会へも浸透するよう配慮する。

例えば、勝川春章の『錦百人一首あづま織』(安永4年刊)に先だって宝暦7年に刊行された北尾雪坑斎の『立画百人一首』は、その外題「たちえ」からも窺える通り、(春章とは異なってモノクロではあるが)立ち姿の歌仙絵を描いている。本書こそ、歌仙の妖艶な立ち姿が印象的な『あづま織』への「補助線」と見るべき書物であった。歌書を中心とした絵本に「和歌絵本」なる新たな呼称(学術用語)を付与し、従来当該領域を欠いてきた江戸の絵本研究に新たな視座をもたらしたい。

4. 研究成果

新型コロナの影響を強く受けたものの、当初の計画通り、歌書を対象とした絵本と絵入り本の基礎的研究を推進することができた。一部にデジタルデータによる調査を含む上に、諸般の事情による未見の書目も一定程度残ったが、種々の関連古典籍の収集も叶い、これでおおむね絵入り歌書刊本の全体像を把握できるものと考え。問いを生むこの基礎データを基盤として、今後はより全円的な江戸の絵入り本研究へと発展させたい。

文献資料ワークショップでの発表に留まらず、国際学会E A J Sでのパネル発表および英文論文の公開など、国際性を強く意識した研究成果を出せたことも特記しておく。

以下に具体的な研究成果を摘記する。

(1) 悉皆調査による基礎データの集積

新型コロナ流行のために国内各所における文献調査はままならなかったが、それでも、移動可

能な時期を見計らって細々と調査を実施するとともに、適宜デジタルデータを利用して、当初の計画を遂行した。やむを得ず一部に残った未見の書目は今後の調査に期す。

(2) 図書(共著)

和歌文学会出版企画委員会(草野隆・神作研一など4名)編『和歌のタイムライン』(全155頁、三弥井書店、2021年)*「近世」(100~121頁)担当は神作研一・高野奈未・高松亮太の3名。

(3) 国際学会でのパネル発表

E A J S 筑波大学2019(ヨーロッパ日本研究学会)

2019年9月15日に筑波大学で開催。

パネル Picture Scrolls and Illustrated Books in 17th Century Japan

Chair TANIKAWA Keiichi(国文研)

Panerist KUME Shiori(国文研)

KOIDA Tomoko(国文研)

KANSAKU Ken'ichi(国文研)

MIYAMOTO Yukiko(国文研)

A A T J 2022(アメリカ日本語教育学会)

2022年3月19日にオンライン開催。

パネル How to Engage with Pre-Modern Japanese Works(Kotenseki)

:Showcasing the Richard Lane Collection at the Honolulu Museum of Art

Chair R.Huey(UHM)

Organizer Malgorzata K,Citko-Duplantis(テキサス州立大学)

MINAMI Kiyoe(ホノルル美術館)

KANSAKU Ken'ichi(国文研)

Discussant P.Tommasi(UHM)

*KANSAKU For Research and Education

:Approaching the Richard Lane Collection at the Honolulu Museum of Art

(4) 国際共同研究会

2022年8月27日にハワイ大学マノア校で開催。発表者は4名。R.ヒューイ(UHM)

バゼル山本登紀子(UHM)、P.トンマーシ(UHM)、神作研一(国文研)

*KANSAKU 「R.レインの絵本と絵入り本」

(5) 英文による研究論文

KANSAKU Ken'ichi 「Transition of Kasho Focusing on the Early Edo Period」(『国文学研究資料館紀要(文学研究篇)』46号、左11~46頁、国文研、2020年3月)

KANSAKU Ken'ichi 「A Study of Jikkei-ron :An Aspect of KAGAWA Kageki's Karon」(『国文学研究資料館紀要(文学研究篇)』47号、左5~45頁、国文研、2021年3月)

KANSAKU Ken'ichi 「Longing for the Refinement of the Heian Court during the Edo Period : Development of Printed Books with Kasen-e」(『国文学研究資料館紀要(文学研究篇)』48号、左13~70頁、国文研、2022年3月)

(6) 社会貢献

読売新聞「国文研千年の旅」への寄稿

2019年10月16日付け「生きる指針 古典の中に」

2019年10月30日付け「立ち姿歌仙絵「異端」表現」

2021年2月3日付け 「江戸期にも楽しい「絵本」

2023年3月29日付け 「飛鳥山、幕臣たちの風雅」

月刊誌『俳句四季』(東京四季出版)誌上での連載「てのひらの江戸 古典籍を旅する」

2021年7月(38巻8号)より、絵入歌書刊本の蔵儲に富んだホノルル美術館所蔵リチャードレインコレクションの中から毎号1作品を取り上げて、その要点を見開きでわかりやすく紹介している(連載中)。これまでに取り上げた主たる作品は、菱川師宣『百人一首像讚抄』、同『小倉山百人一首』、西川祐信『花陽百人一首大成』、同『絵本徒然草』、菱川師宣『伊勢物語頭書抄』など。

国文研「本のかたち 本のこころ」展示リーフレット(2019年10月)

コラム「和歌絵本 とは何か?」土佐光貞の『百人一首』など6作品の解題

国文研「こくぶんけん 推し の1冊」展示リーフレット(2022年4月)

〔素庵本三十六歌仙〕
国立国会図書館デジタルコレクションへの「解題」の寄稿（2022～2023年）
『錦百人一首あづま織』『歌仙金玉抄』『飛鳥山十二景詩歌』など10作品。

以 上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 KANSAKU Ken'ichi	4. 巻 48号
2. 論文標題 Longing for the Refinement of the Heian Court during the Edo Period:Development of Printed Books with Kasen-e	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要（文学研究篇）	6. 最初と最後の頁 左13,70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 KANSAKU Ken'ichi	4. 巻 47号
2. 論文標題 A Study of Jikkei-ron:An Aspect of KAGAWA Kageki's Karon	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要（文学研究篇）	6. 最初と最後の頁 左5,45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 海野圭介・小川剛生・落合博志・神作研一	4. 巻 1
2. 論文標題 国文学研究資料館所蔵松野陽一文庫分類目録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 浅田徹ほか編『和歌史の中世から近世へ』所収	6. 最初と最後の頁 547,620
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KANSAKU Ken-ichi	4. 巻 46号
2. 論文標題 Transition of Kasho Focusing on the Early Edo Period	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国文学研究資料館紀要（文学研究篇）	6. 最初と最後の頁 左11,46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 海野圭介・神作研一・桑汐里・小林健二	4. 巻 43号
2. 論文標題 国文学研究資料館所蔵碧洋白田甚五郎文庫分類目録	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 調査研究報告	6. 最初と最後の頁 573,620
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 神作研一
2. 発表標題 絵入歌書刊本の展開 江戸前期を中心に
3. 学会等名 E A J S 筑波大学 2 0 1 9 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KASNAKU Ken'ichi
2. 発表標題 For Research and Education :Approaching the Richard Lane Collection at the Honolulu Museum of Art
3. 学会等名 A A T J 2 0 2 2 (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 和歌文学会出版企画委員会編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 155
3. 書名 和歌のタイムライン 年表でよみとく和歌・短歌の歴史	

1. 著者名 浅田徹・小川剛生・兼築信行・神作研一・田淵句美子・堀川貴司	4. 発行年 2020年
2. 出版社 花鳥社	5. 総ページ数 638
3. 書名 和歌史の中世から近世へ	

1. 著者名 入口敦志・落合博志・神作研一・桑汐里	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国文学研究資料館	5. 総ページ数 63
3. 書名 本のかたち 本のこころ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
米国	ハワイ大学マノア校	ホノルル美術館	